

集落営農組織における運営体制の構築及び

経営ビジョンの形成に向けた支援

1 課題の目的

旭市では借地・基幹作業受託による水稲の大規模化が進む一方、分散錯圃の増加による作業効率の低下や水稲農家の高齢化・米価低迷等に伴い、水田の担い手の減少が懸念されている。そこで、昨年度発足した農事組合法人を地域水田営農発展の核となる担い手組織として育成するため、運営体制の構築および経営ビジョンの形成に向けて支援していく。

2 課題の背景

- (1) 旭市では借地・基幹作業受託による水稲の大規模化が進む一方、分散錯圃の増加による作業効率の低下や水稲農家の高齢化、米価低迷等に伴い、担い手の減少が懸念されており、地域水田営農の効率化・合理化に向けた取組が急務となっている。
- (2) 地域の課題を解決するため、平成 29 年 2 月に農業者や関係機関とともに地域の水田営農の現状と将来について考える座談会を開催し、嚶鳴地区の担い手 5 名から「地域の水田を守りたい」、「他品目の作業もあるので田んぼ作業を効率化したい」という前向きな意見が挙げられた。以降、有志 5 名を中心に地域水田営農の発展や水稲経営の協業化に向けて話し合いを重ねた結果、平成 30 年 10 月に「農事組合法人おうめいワクワクお米クラブ」が設立された。
- (3) 本法人の本格的な活動は今年度からであり、運営体制や経営管理に関しては手探りの部分が多いため、主体的な組織運営を行えるよう運営体制の構築及び経営ビジョンの形成に向けた支援が必要と思われた。

3 普及活動の経過

- (1) 組織運営の仕組みづくり
組合員が所有する機械を利用した場合の労働対価の考え方や共同で作業した場合の従事分量配当のルールについて話し合いを行った。また、県単補助事業の要件を達成するため、生産調整に向けた作付計画を作成した。
- (2) 水稲採種事業に係る指導
本法人では県内及び地域における優良種子を安定供給および県産米の安定生産を図るため、今年度から海上地区の採種組合に参入し、水稲種子生産を行った。種子生産においては、栽培管理・肥培管理や収穫・乾燥調製に係る工程が慣行栽培と異なるため、留意すべき点について指導した。

(3) 海匠管内における集落営農組織の先進事例視察

組織運営体制や共同利用施設の導入について先進事例を参考にするため、匠瑛市の大規模な集落営農組織である「農事組合法人 栄営農組合」を視察した。

4 普及(調査)活動で得られた成果

(1) 機械利用料金及び従事分量配当のルールを定めることにより各作業に掛かる労働対価を共有することができた。さらに、作業記録や経営管理が容易になり、主体的な運営を図るための基礎が固まった。また、県単補助事業を活用したライスセンター等の共同利用施設導入を主軸に経営方針を考えることにより、生産調整に必要な品種の選定や面積拡大の計画作成をスムーズに行えた。

(2) 健全種子の生産には、育苗時の温度管理や種子を充実させる栽培管理、丁寧な刈取り等が重要であるため、採種事業に取り組むことで作業工程を見直すきっかけとなり、今後の活動に必要な機械・設備導入や効率的な作業分担を自ら考えて行動できるようになった。

(3) 視察先の代表者と意見交換していく中で、共同利用施設の運営方針について産地の中核となるビジョンが固まっていないと運営は難しいとの意見を頂いた。その後、視察の振り返りを行い、組合員1人1人が地域農業における法人の役割について再考することで、具体的な経営ビジョンが見えるようになってきた。



視察先代表者との意見交換

5 問題点と今後の展開方向

現在、遊休地対策として担い手組織に土地が集約するような仕組みが確立されていないため、今後は地域環境保全会や関係機関と連携しながら、地域一体となった農地利用調整に関する合意形成を推進していく。また、共同利用施設の導入や規模拡大により組合員への負担が増加すると考えられるため、地域に理解を得ながら人材確保を進めていく。

(旭グループ 普及技術員 山本 一浩)